

試行サービス
元年

技研公開編

「ハイブリッドキャスト」UIの仕上がりは

5月末に行われたNHK放送技術研究所の「技研公開」。中でも注目を集めたのは、今年度中に試行サービスが開始されるという「ハイブリッドキャスト」で、1Fエントランスには多数のサービス例が展示された。その次世代放送サービス、UIの仕上がりはどのような状態なのだろうか。各アプリのUI状況についてチェックしてきた。

まずはNHKの独立型アプリ「アクティブ番組表」。NHKが放送している4チャンネルの番組表を過去30日、未来8日分まで閲覧できるサービスで、過去30日の番組については、NHKオンデマンドの見逃し番組視聴と連動しているという。

過去の見逃し視聴に関するコンテンツ対応力はNODに頑張ってもらおうとして、気になったのは「検索力」。過去30日分という大量データの中から番組を探すには「一覧の中から手動の画面スクロールで当該番組を探す」というのは少々厳しい。

まずキーワードの検索機能は必須。「ハイブリッドキャスト」のポテンシャルからすれば、音声検索含めそう難しい話ではないはず。もうひとつ欲を言えば、スクロール、カーソルの動きに速度を求めたい。この連載で過去に紹介したPS3用テレビ閲覧アプリ「Torne」くらいのスピードがほしいところだ。

が、担当者に聞いてみたところ「動きに速度をつけるのは難しい」そうだ。テレビやタブレットのマシンパワーでは、PS3のそれに及ばない、ということが原因らしい。逆に言えば、現段階において「Torne」はハイブリッドキャストに持ち込めないということ。質の高いアプリとして輸入を期待していただけに残念だ。

タイミング素晴らしい「同期型」

展示全体としても目を引いたのが「番組同期型」アプリの完成度。放送の同期信号によってネット情報を番組と同期して表示するサービスで、スマホ・タブレットなどの端末と連携した番組参加型のサービスを楽しめる。

NHKのミニゲーム「楽器セッション」は、バンダイナムコ「太鼓の達人」風のリズムゲームで、番組内で演奏される楽曲に合わせてタブレット側

に表示された楽器を演奏。手軽に参加感が味わえて面白い。

フジテレビは、CM連動のミニゲームを用意。タブレット側に表示されるワインボトルを傾ける（端末そのものを傾ける）と、テレビ画面に表示されたグラスにワインが注がれるというもの。成功するとプレゼント応募に参加できる。

TBSが用意した歌番組向けアプリは、出演アーティストのパフォーマンスに合わせてスマホをマイク代わりに歌うと、なんと自身の歌が採点されるというサービス。スマホは通信接続されているため、採点後には参加者のランキングまで表示される仕組みだ。

この3サービスを含む同期型アプリに共通して言える特徴、それは「同期タイミングの素晴らしさ」だろう。通信を介することによる遅延をち密に計算し、ピッタリのタイミングでアプリを展開させていた。この種のサービスは少しのズレがUI的に致命傷となり得るだけに、意識の高さをうかがわせた。

「テレビノート」は面白いが……

最後はNHK「テレビノート」。番組を視聴中、タブレットで気になる部分をタッチすることで、知りたい情報や友達の盛り上がり状況などを取得できるサービスだ。

もう少し具体的に説明すると、自身の指をマウス、タブレット画面をマウスパッドに見立て、指をおいた地点に相当するテレビ画面の位置にマウスポインタが出現。その地点に映っている人物・物体の情報を表示されるというものだ（写真）。

正直、これは操作が相当難しかった。ノートPCのタッチパッド感覚を目指しているのであろうが、通信を介していることもあり、力加減や遅延の計算に慣れが必要。面白いサービスではあるが、もう少しスムーズに扱えるよう工夫ほしい。

新たに登場するサービスにとって「使いやすいUIの確保」は普及に向けた基本線。試行サービス開始までにどこまで練られた状態になってくるか、注目して見守りたい。

